

枚方市商工だより

(2008年7月)

[主な内容]

枚方市からのお知らせ

地域経済動向調査VOL - 75 (2008年4~6月)

【調査の概要】

本調査は、枚方市の委託事業として北大阪商工会議所が実施しているもので、地域経済の総合的な動向を把握することで、産業振興のための基礎資料として利用するとともに、地域の経営者等へ情報提供している。

調査対象は、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、市内の主要な産業を網羅している。

企業規模は、製造業は全数を、その他の業種は、従業者規模5人以上の事業所から無作為抽出している。

調査方法は、往復はがきによるアンケート方式で、2008年7月上旬に1,053社に発送し、回答期限までに251社から回答が得られた。

全体の回答率は23.8%で、業種別・規模別回答状況は、表1、表2の通りである。

表1. 業種別回答状況

集約業種名		母集団	回答数	回答率
製 造 業	食料・飲料	37	8	21.6
	繊維・衣服	67	7	10.4
	木材・家具	19	1	5.3
	紙・出版・印刷	39	7	17.9
	化学・プラスチック	58	17	29.3
	鉄鋼・非鉄金属	28	11	39.3
	金属製品	67	13	19.4
	一般機械	73	20	27.4
	電気機械	39	10	25.6
	その他の製造業	43	13	30.2
製造業計		470	107	22.8
非 製 造 業	建設業	113	44	38.9
	卸売業	67	16	23.9
	小売業	210	35	16.7
	飲食店	66	10	15.2
	サービス業	127	39	30.7
非製造業計		583	144	24.7
合計		1,053	251	23.8

表2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率
1～3人	110	7	6.4	-	-	-	110	7	6.4
4～9人*	112	16	14.3	274	60	21.9	386	76	19.7
10～19人	80	23	28.8	174	42	24.1	254	65	25.6
20～29人	29	8	27.6	60	19	31.7	89	27	30.3
30～49人	46	20	43.5	39	10	25.6	85	30	35.3
50～99人	36	17	47.2	20	7	35.0	56	24	42.9
100～199人	37	10	27.0	11	4	36.4	48	14	29.2
200～299人	7	2	28.6	3	2	66.7	10	4	40.0
300人以上	13	4	30.8	2	0	0.0	15	4	26.7
合計	470	107	22.8	583	144	24.7	1,053	251	23.8

*) 非製造業の規模 4～9人は 5～9人である。

【 概要 】

製造業は生産額、出荷額ともに減少傾向にある。前年同期比では生産は後退。設備投資も大きく後退している。

非製造業の売上額は回復傾向にある。採算状況は前期より更に悪化している。前年同期比では売上額、客数、設備投資額は揃って後退している。

向こう3ヶ月の景気見通しは、製造業、非製造業ともに好転する見方は少なく悪化見通しが大勢を占めている。

2008年6月の日銀短観は、大企業製造業の業況判断指数が3期連続で悪化し、平成15年9月以来、4年9ヶ月ぶりの低水準に落ち込んだ。

昨年夏以降、サブプライム問題による米景気の停滞により、外需が減速し、原油・原材料の高騰により企業収益の悪化や食料品などの値上がりによる消費の低下なども影響して景気の減速につながってきた。

戦後最長の拡大を続けてきた日本経済は一般的な停滞である「踊り場」にあり、持ち直すか、後退に転じるかの岐路に立たされている。

6月の景気動向指数は4ヶ月連続で悪化し、悪化幅は拡大傾向を続けている。この背景には、異常な原油高と同様に資源価格も高騰していることと、大規模製造業でさえコストアップ分を価格転嫁できず収益を圧迫する事態に及んでいるということがある。尚さら、原材料費の高騰を価格に転嫁できない中小企業では採算度外視の販売競争の末、経営破綻するケースが増加している。

また、業績悪化を受け、設備投資を控える動きも出てきた。大企業非製造業や中小企業の2008年度の計画は、前年比マイナスとなっている。

大企業製造業はプラスながらも、2002年以来の低い伸びにとどまっている。

このような状況のなか、価格高騰の沈静化や、米国経済の回復など、外部環境の好転を待つしかないというのが実情である。

帝国データバンクによると、6月度の全国企業倒産は再び増勢に転じ、増加率は前年同期比11.7%増と7ヶ月ぶりに2ケタ台に乗せた。

原因別では「販売不振」が2年連続で前年を上回り、「不況型倒産」構成比は約8割を占めた。

企業倒産は従業員を多く抱えた中堅企業の倒産増で負債が大型化しているが、小・零細企業が件数を押し上げていることに変化はなく、当面は増勢局面が続くとみられる。

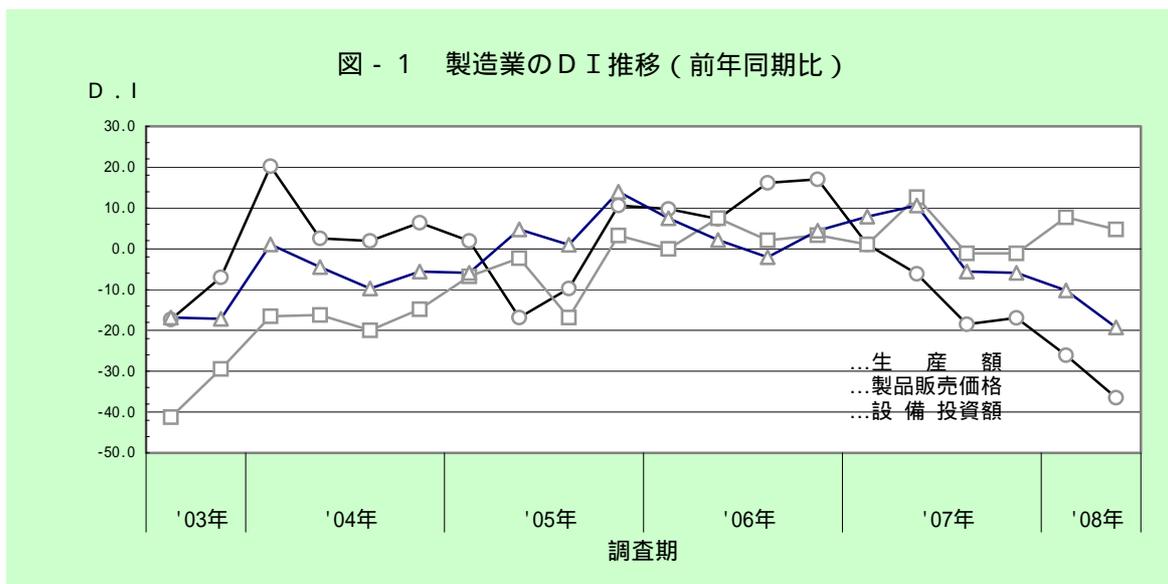
2008年第 四半期(4~6月)の枚方市製造業の生産額は、減少企業が多数を占め、出荷額も減少企業が増加している。受注状況も、減少企業が増え、より一層、後退感が強くなっている。

製品在庫額は、適正水準にある企業が圧倒的に多く安定した状態が続いている。しかし、過剰感が強まる動きも一部にみられる。原材料仕入価格は、値上がり企業が圧倒的に多く、高騰状態にある。

製品販売価格は、値上げ企業が値下げより増加している。横這が減少しているが、横這が圧倒的に多い状態に変わりはない。採算状況は、悪化企業が大勢を占め、厳しい状態に変わりはない。

資金繰りは、全体としては横這企業が多数を占めているが、悪化企業が増加しており、改善の動きが見られない。

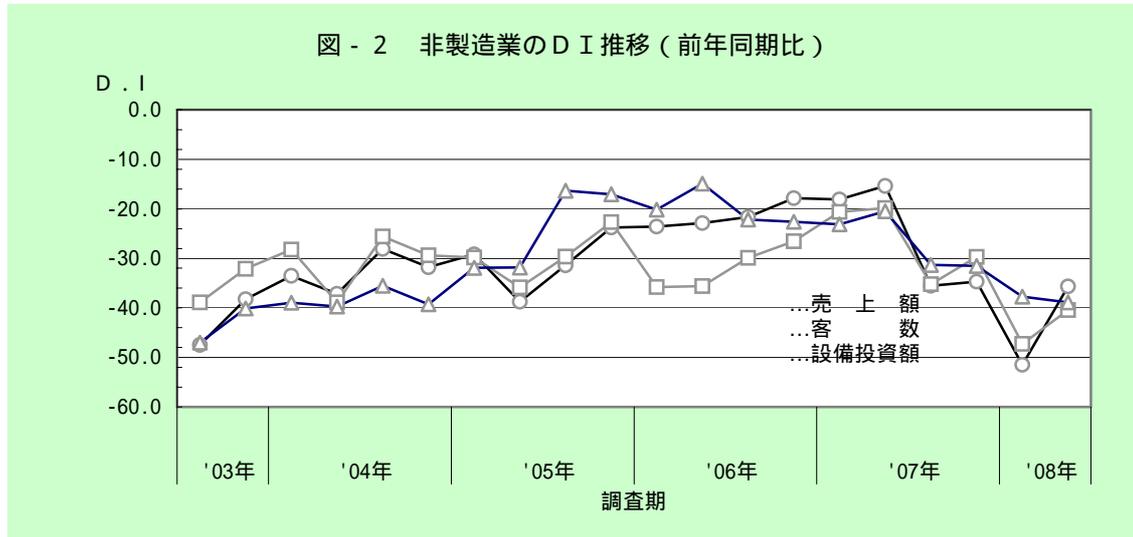
前年同期比では、減産企業が増加している。製品販売価格は、横這がわずかながら減少し、値下げ企業がわずかながら増えている。設備投資額は、減少が増加しており回復の動きが後退している(図-1)。



非製造業の売上額は、一部増加企業が増えたことから回復傾向を示している。採算状況は、あまり変化がみられない。資金繰りも、変化がなく苦しい状況に変わりはない。

前年同期比では、売上額は回復傾向を示している。客数も、わずかながら改善されている。設備投資額は、減少企業が一部増えており低迷状態が続いている(図-2)。

向こう3ヶ月の景気見通しは、製造業、非製造業ともに好転する見方が少なくなっている。(表 - 3)。



(注) 景気動向指標 (D.I = Diffusion Index)
 = 良くなった企業の割合 (マイナス) 悪くなった企業の割合

表3. 総括表(DIの推移)

景気動向指標	'03年				'04年				'05年				'06年				'07年				'08年					
	III	IV	I	II	III	IV	I	II	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II				
	生産出荷前	-12.2	7.0	5.7	-8.5	4.7	0.0	-0.9	-13.5	-1.9	15.8	0.0	-2.1	14.9	20.0	-7.4	-17.9	-17.4	-1.1	-26.9	-33.6	-1.1	-26.9	-33.6		
在庫	-8.3	2.7	6.7	-8.6	3.8	-2.8	-4.7	-14.9	2.0	19.4	-2.4	-4.3	20.4	19.1	-5.9	-14.4	-16.5	-1.1	-22.8	-28.0	-1.1	-22.8	-28.0			
仕入	-18.1	-19.6	-14.0	-16.7	-7.1	-10.4	-12.7	-13.1	-10.0	-5.5	-6.7	-14.6	-7.4	-9.0	-6.6	-6.5	-12.8	-6.0	-12.5	-14.3	-6.0	-12.5	-14.3			
材料	21.9	26.8	50.5	50.0	69.5	61.1	66.0	64.4	51.0	46.7	53.2	65.3	66.7	54.3	57.9	64.6	55.6	62.8	69.0	81.3	62.8	69.0	81.3			
販売	-35.1	-24.8	-18.4	-13.5	-7.6	-13.1	-1.9	-8.0	-14.7	-1.1	-1.3	4.2	1.0	-3.3	-4.3	5.3	0.0	8.0	4.3	3.8	8.0	4.3	3.8			
算	-34.0	-25.4	-23.9	-27.6	-43.4	-26.6	-35.2	-36.0	-32.7	-12.8	-12.2	-33.3	-28.0	-19.1	-33.7	-33.7	-33.0	-48.3	-35.9	-54.2	-48.3	-35.9	-54.2			
注	-20.6	-17.0	-10.7	-12.9	-13.3	-13.8	-8.5	-17.0	-9.7	2.2	0.0	-13.8	-5.1	-5.4	-14.9	-6.2	-15.4	-25.0	-16.3	-27.1	-25.0	-16.3	-27.1			
況	-18.4	-8.6	9.6	-10.2	-1.9	-7.3	-5.7	-21.3	-8.7	7.5	6.1	-1.0	6.9	9.6	-10.5	-13.4	-27.2	-5.7	-23.7	-38.7	-27.2	-5.7	-23.7	-38.7		
3ヶ月の	1.0	-15.0	6.7	-6.8	2.9	-18.2	-13.0	-11.4	1.9	2.2	8.6	8.4	10.3	-2.1	-5.4	-4.1	-7.8	-24.4	-30.0	-34.3	-24.4	-30.0	-34.3			
景況	-17.3	-7.0	20.2	2.6	1.9	6.4	1.9	-16.9	-9.7	10.6	9.8	7.3	16.2	17.0	1.1	-6.1	-18.5	-16.9	-26.1	-36.4	-18.5	-16.9	-26.1	-36.4		
生産	-41.2	-29.5	-16.5	-16.2	-20.0	-14.8	-6.7	-2.3	-16.8	3.2	0.0	7.4	2.1	3.3	1.1	12.6	-1.1	-1.1	7.7	4.7	12.6	-1.1	7.7	4.7		
販売	-16.8	-17.1	1.0	-4.5	-9.7	-5.6	-5.9	4.7	1.0	14.0	7.5	2.2	-2.0	4.4	7.9	10.6	-5.6	-5.9	-10.2	-19.2	10.6	-5.6	-5.9	-10.2	-19.2	
設備	-41.0	-31.5	-33.8	-29.3	-29.2	-22.0	-33.8	-34.5	-24.8	-14.3	-23.9	-6.4	-21.7	-9.3	-20.2	-14.4	-22.6	-25.2	-42.2	-40.3	-20.2	-14.4	-22.6	-42.2	-40.3	
上	-56.2	-50.3	-42.9	-44.9	-39.1	-38.7	-43.8	-41.5	-51.9	-26.6	-43.3	-35.0	-39.1	-30.7	-34.4	-30.3	-43.1	-46.9	-55.6	-57.0	-34.4	-30.3	-43.1	-46.9	-55.6	-57.0
算	-42.9	-35.3	-32.5	-32.5	-29.6	-30.6	-31.3	-26.4	-30.3	-18.2	-22.7	-25.4	-27.1	-20.5	-25.4	-18.0	-29.8	-30.6	-37.3	-38.9	-25.4	-18.0	-29.8	-30.6	-37.3	-38.9
金	-34.0	-36.8	-26.3	-29.9	-22.8	-36.5	-34.7	-34.5	-27.5	-19.9	-10.7	-22.8	-23.3	-25.8	-26.0	-34.1	-34.1	-47.3	-54.1	-52.8	-26.0	-34.1	-34.1	-47.3	-54.1	-52.8
3ヶ月の	-47.4	-38.3	-33.5	-37.1	-28.1	-31.8	-29.2	-38.7	-31.4	-23.7	-23.6	-22.9	-21.7	-17.8	-18.1	-15.4	-35.5	-34.7	-51.5	-35.7	-18.1	-15.4	-35.5	-34.7	-51.5	-35.7
景況	-38.9	-32.1	-26.2	-38.9	-25.6	-29.4	-29.8	-35.8	-29.7	-22.6	-35.8	-35.6	-29.9	-26.5	-20.6	-19.8	-35.2	-29.7	-47.3	-40.4	-20.6	-19.8	-35.2	-29.7	-47.3	-40.4
販売	-47.0	-40.1	-33.0	-33.8	-35.5	-39.3	-31.9	-31.9	-16.3	-17.0	-20.2	-14.9	-22.1	-22.6	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8
先	-47.0	-40.1	-33.0	-33.8	-35.5	-39.3	-31.9	-31.9	-16.3	-17.0	-20.2	-14.9	-22.1	-22.6	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8
数	-47.0	-40.1	-33.0	-33.8	-35.5	-39.3	-31.9	-31.9	-16.3	-17.0	-20.2	-14.9	-22.1	-22.6	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8
準備	-47.0	-40.1	-33.0	-33.8	-35.5	-39.3	-31.9	-31.9	-16.3	-17.0	-20.2	-14.9	-22.1	-22.6	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8
投資	-47.0	-40.1	-33.0	-33.8	-35.5	-39.3	-31.9	-31.9	-16.3	-17.0	-20.2	-14.9	-22.1	-22.6	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8

業種別の景気動向

1. 製造業の景気動向

【生産額】

前期と比べた当期(2008年4~6月)の生産額は、増加10.3%、横這45.8%、減少43.9%となっている。減少が増加を上回っている。総合D.Iはマイナ33.6P(ポイント)で減少幅が拡大してきた。

業種別に見ると、全業種で減産企業が増産企業を上回っている。

前年同期比では、増加15.0%、横這33.6%、減少51.4%となっている。総合D.Iはマイナ36.4Pで大きく後退している。

業種別にみると、増産企業は、7業種にみられる。なかでも、食料・飲料がもっとも多い。減産企業は、全業種にみられるが、繊維・衣服、木材・家具、一般機械、電気機械、その他の製造業で半数を超えており、今期は減産傾向に陥った企業が増えている(表4)。

表4. 生産額

業種	当期の生産額は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	件数	増加	横這	減少	D.I	
製	食料・飲料	8	12.5	50.0	37.5	-25.0	8	37.5	37.5	25.0	12.5
	繊維・衣服	7		28.6	71.4	-71.4	7		28.6	71.4	-71.4
	木材・家具	1			100.0	-100.0	1			100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	7		42.9	57.1	-57.1	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
造	化学・プラスチック	17	5.9	64.7	29.4	-23.5	17	11.8	41.2	47.1	-35.3
	鉄鋼・非鉄金属	11	9.1	45.5	45.5	-36.4	11	9.1	45.5	45.5	-36.4
業	金属製品	13	15.4	23.1	61.5	-46.2	13	15.4	38.5	46.2	-30.8
	一般機械	20	15.0	60.0	25.0	-10.0	20	20.0	25.0	55.0	-35.0
	電気機械	10	10.0	30.0	60.0	-50.0	10		20.0	80.0	-80.0
	その他の製造業	13	15.4	46.2	38.5	-23.1	13	23.1	23.1	53.8	-30.8
	製造業計	107	10.3	45.8	43.9	-33.6	107	15.0	33.6	51.4	-36.4

【出荷額】

当期の出荷額は、増加 14.0%、横這 43.9%、減少 42.1%となっている。総合 D.I は マイナス 28.0P である。

業種別では、繊維・衣服、木材・家具では増加企業が皆無で、各業種共、減少企業が増加している。

表5. 出荷額

業種	出荷額は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製	食料・飲料	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
	繊維・衣服	7		28.6	71.4	-71.4
	木材・家具	1			100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	7	14.3	42.9	42.9	-28.6
造	化学・プラスチック	17	17.6	52.9	29.4	-11.8
	鉄鋼・非鉄金属	11	18.2	45.5	36.4	-18.2
	金属製品	13	15.4	15.4	69.2	-53.8
業	一般機械	20	20.0	60.0	20.0	0.0
	電気機械	10	10.0	30.0	60.0	-50.0
	その他の製造業	13	7.7	46.2	46.2	-38.5
	製造業計	107	14.0	43.9	42.1	-28.0

【製品在庫額】

前期と比べた製品在庫額は、不足 7.1%、適正 71.4%、過剰 21.4%となっている。適正水準の企業が圧倒的多数を占めている。しかし、不足企業が減る一方、過剰企業が増えおり、総合 D.I は マイナス 14.3P と、過剰感が増している。

業種別では、電気機械のみ過剰企業が半数あり、その他の業種においては適正水準の企業が大半を占めている。(表6)。

表6. 製品在庫額

業種	製品在庫額は 前期に比べ					
	件数	不足	適正	過剰	D.I	
製	食料・飲料	8		87.5	12.5	-12.5
	繊維・衣服	5		80.0	20.0	-20.0
	木材・家具	1		100.0		0.0
	紙・出版・印刷	6	33.3	66.7		33.3
造	化学・プラスチック	17		76.5	23.5	-23.5
	鉄鋼・非鉄金属	11		63.6	36.4	-36.4
	金属製品	13	15.4	61.5	23.1	-7.7
業	一般機械	19		89.5	10.5	-10.5
	電気機械	6	16.7	33.3	50.0	-33.3
	その他の製造業	12	16.7	58.3	25.0	-8.3
	製造業計	98	7.1	71.4	21.4	-14.3

【原材料仕入額】

前期と比べた原材料仕入額は、値上がり 81.3%、横這 18.7%、値下がり 0%である。全ての業種で値上がりしており、総合 D.I はプラス 81.3P で、値上がり傾向が一段と強くなっている。

業種別では、値上がり企業が全ての業種でみられる。

値下がりは、全業種で皆無である（表 7）。

表 7 . 原材料仕入額

業種	仕入額は 前期に比べ				
	件数	値上	横這	値下	D. I
製	食料・飲料	8	62.5	37.5	62.5
	繊維・衣服	7	42.9	57.1	42.9
	木材・家具	1	100.0		100.0
	紙・出版・印刷	7	71.4	28.6	71.4
造	化学・プラスチック	17	82.4	17.6	82.4
	鉄鋼・非鉄金属	11	81.8	18.2	81.8
業	金属製品	13	84.6	15.4	84.6
	一般機械	20	90.0	10.0	90.0
	電気機械	10	90.0	10.0	90.0
	その他の製造業	13	92.3	7.7	92.3
	製造業計	107	81.3	18.7	81.3

【製品販売価格】

前期と比べた製品販売価格は、値上がり 16.0%、横這 71.7%、値下がり 12.3%となっている。横這が圧倒的多数を占めている。総合 D.I は 3.8P で、安定傾向にある。

業種別では、値上がり企業は 6 業種で、横這は、全ての業種で多数派となっている。一方、値下がり企業が 7 業種にみられる。

前年同期比では、値上がり 21.7%、横這 61.3%、値下がり 17.0%となっている。総合 D.I はプラス 4.7P で、値上がり傾向がわずかながら出てきた。

業種別では、繊維・衣服、電気機械、金属製品、その他の製造業、一般機械は D.I の水準が低く、いずれも下落気味となっている（表 8）。

表 8 . 製品販売価格

業種	当期の販売価格は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D. I	件数	値上	横這	値下	D. I	
製	食料・飲料	8	25.0	75.0		25.0	8	37.5	62.5		37.5
	繊維・衣服	6		83.3	16.7	-16.7	6		50.0	50.0	-50.0
	木材・家具	1		100.0		0.0	1		100.0		0.0
	紙・出版・印刷	7	28.6	42.9	28.6	0.0	7	42.9	42.9	14.3	28.6
造	化学・プラスチック	17	23.5	76.5		23.5	17	52.9	47.1		52.9
	鉄鋼・非鉄金属	11	36.4	45.5	18.2	18.2	11	36.4	54.5	9.1	27.3
業	金属製品	13	7.7	84.6	7.7	0.0	13	7.7	69.2	23.1	-15.4
	一般機械	20	20.0	70.0	10.0	10.0	20	15.0	65.0	20.0	-5.0
	電気機械	10		80.0	20.0	-20.0	10		60.0	40.0	-40.0
	その他の製造業	13		76.9	23.1	-23.1	13		84.6	15.4	-15.4
	製造業計	106	16.0	71.7	12.3	3.8	106	21.7	61.3	17.0	4.7

【採算状況】

前期に比べた採算状況は、好転5.6%、横這34.6%、悪化59.8%となっている。総合D.Iはマイナス54.2Pで、悪化傾向が一段と強くなっている。

業種別では、好転企業は3業種と少数みられるが、悪化企業は全業種でみられる。とくに、繊維・衣服、木材・家具、紙・出版・印刷、鉄鋼・非鉄金属、電気機械、その他の製造業では悪化が大勢を占めている。(表9)。

表9.採算状況

業 種		採算状況は 前期に比べ				
		件数	好転	横這	悪化	D. I
製	食料・飲料	8		75.0	25.0	-25.0
	繊維・衣服	7		28.6	71.4	-71.4
造	木材・家具	1			100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	7		42.9	57.1	-57.1
業	化学・プラスチック	17	5.9	41.2	52.9	-47.1
	鉄鋼・非鉄金属	11		9.1	90.9	-90.9
業	金属製品	13	15.4	30.8	53.8	-38.5
	一般機械	20	15.0	40.0	45.0	-30.0
業	電気機械	10		10.0	90.0	-90.0
	その他の製造業	13		38.5	61.5	-61.5
製造業計		107	5.6	34.6	59.8	-54.2

【資金繰り】

前期と比べた当期の資金繰りは、好転4.7%、横這63.6%、悪化31.8%となっている。総合D.Iはマイナス27.1Pと再び悪化傾向が出てきた。

業種別では、好転企業は3業種でみられるだけであり、他の業種は皆無である。

悪化企業は、全業種にみられ、悪化幅が拡大している。(表10)。

表10.資金繰り

業 種		資金繰りは 前期に比べ				
		件数	好転	横這	悪化	D. I
製	食料・飲料	8		75.0	25.0	-25.0
	繊維・衣服	7		42.9	57.1	-57.1
造	木材・家具	1			100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	7		85.7	14.3	-14.3
業	化学・プラスチック	17		76.5	23.5	-23.5
	鉄鋼・非鉄金属	11		72.7	27.3	-27.3
業	金属製品	13	23.1	38.5	38.5	-15.4
	一般機械	20	5.0	85.0	10.0	-5.0
業	電気機械	10		50.0	50.0	-50.0
	その他の製造業	13	7.7	38.5	53.8	-46.2
製造業計		107	4.7	63.6	31.8	-27.1

【受注状況】

前期と比べた当期の受注状況は、増加 8.5%、横這 44.3%、減少 47.2%となっている。増加企業は 6 業種にみられるが、減少が全業種にみられる。総合 D.I は マイナス 38.7P と再び悪化のきざしがみられる。

業種別では、減少企業が全業種にみられるが、このうち、繊維・衣服、木材・家具、紙・出版・印刷、金属製品、電気機械の 5 業種で多数を占めている（表 11）。

表11. 受注状況

業 種	受注状況は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D. I	
製	食料・飲料	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
	繊維・衣服	7		28.6	71.4	-71.4
	木材・家具	1			100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	7	14.3	14.3	71.4	-57.1
造	化学・プラスチック	17	11.8	64.7	23.5	-11.8
	鉄鋼・非鉄金属	11		54.5	45.5	-45.5
	金属製品	13	15.4	7.7	76.9	-61.5
業	一般機械	20	10.0	60.0	30.0	-20.0
	電気機械	9		22.2	77.8	-77.8
	その他の製造業	13	7.7	53.8	38.5	-30.8
	製造業計	106	8.5	44.3	47.2	-38.7

【設備投資額】

前年同期と比べた当期の設備投資額は、増加 13.5%、横這 53.8%、減少 32.7%となった。総合 D.I は マイナス 19.2P となり、減少傾向が強くなっている。

業種別では、食料・飲料、繊維・衣服、木材・家具、金属製品では増加は皆無となっている。横這は、8 業種で多数を占めている。

減少は、繊維・衣服、木材・家具などに多い（表 12）。

表12. 設備投資額

業 種	設備投資額は 前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D. I	
製	食料・飲料	8		75.0	25.0	-25.0
	繊維・衣服	6		50.0	50.0	-50.0
	木材・家具	1			100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	7	28.6	57.1	14.3	14.3
造	化学・プラスチック	17	17.6	52.9	29.4	-11.8
	鉄鋼・非鉄金属	11	9.1	63.6	27.3	-18.2
	金属製品	13		61.5	38.5	-38.5
業	一般機械	19	26.3	42.1	31.6	-5.3
	電気機械	10	10.0	50.0	40.0	-30.0
	その他の製造業	12	16.7	50.0	33.3	-16.7
	製造業計	104	13.5	53.8	32.7	-19.2

【向こう3ヶ月の景況】

来期の景気見通しは、好転 11.4%、横這 42.9% 悪化 45.7%となっている。好転する見方が少なくなっている。総合 D.I はマックス 34.3P でマックス幅が拡大している。

業種別では、好転は木材・家具を除く業種にみられる。

悪化は、全ての業種で多くなっている（表 13）。

表13. 向こう3ヶ月の景況

業種	向こう 3ヶ月の景況					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造	食料・飲料	8	12.5	37.5	50.0	-37.5
	繊維・衣服	7	28.6	14.3	57.1	-28.6
	木材・家具	1			100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	6	16.7	50.0	33.3	-16.7
業	化学・プラスチック	17	11.8	58.8	29.4	-17.6
	鉄鋼・非鉄金属	11	9.1	36.4	54.5	-45.5
	金属製品	13	7.7	38.5	53.8	-46.2
	一般機械	20	5.0	55.0	40.0	-35.0
業	電気機械	9	22.2	22.2	55.6	-33.3
	その他の製造業	13	7.7	46.2	46.2	-38.5
	製造業計	105	11.4	42.9	45.7	-34.3

2. 建設業の景気動向

建設業の売上額は、半数以上の企業で減少、減少幅が拡大しており、深刻な売上不振に陥っている。工事引合件数も、減少企業が増えており回復の動きがみられない。

受注状況は、わずかながら改善されているが、相変わらず悪化企業が大勢を占めており、厳しい状況に変わりはない。

受注単価は、値上企業が増えており、D.I は多少改善されている。

資材仕入額は、横這が少なくなり、値上がり率が7割以上を占めている。

労務費は、横這が大多数を占め落ち着いた状態にある。

採算状況は、好転企業が皆無であるが、横這が増加し、D.I は多少改善されている。

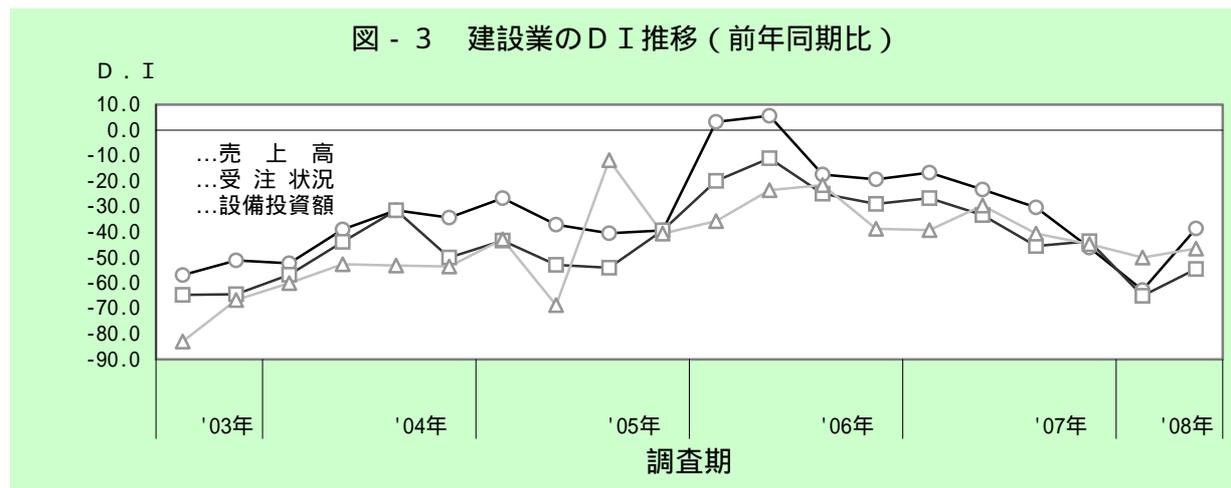
表14. 建設業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前 期 比	売上額	44	6.8	31.8	61.4	-54.5
	資材仕入額	44	75.0	20.5	4.5	70.5
	労務費	44	13.6	81.8	4.5	9.1
	工事引合件数	44	2.3	31.8	65.9	-63.6
	受注単価	44	9.1	52.3	38.6	-29.5
	採算状況	44		36.4	63.6	-63.6
	資金繰り	44		56.8	43.2	-43.2
	受注状況	44	2.3	40.9	56.8	-54.5
	向こう3ヶ月の景況	44	2.3	45.5	52.3	-50.0
前 期 年 比	売上額	44	13.6	34.1	52.3	-38.6
	受注状況	44	4.5	36.4	59.1	-54.5
	設備投資額	43	9.3	34.9	55.8	-46.5

資金繰りも、好転企業が皆無である。

前年同期比では、売上額は、減少企業が多数を占めているものの、D.I は 24 ポイント改善している。受注状況についても、D.I は 10 ポイント改善している。設備投資は、一部増加企業も出てきているものの、減少企業が大勢を占めており低迷状態が続いている。

向こう3ヶ月の景況感は、悪化見通しが大勢を占めており、引き続き厳しい景況感となっている(表 14、図 3)。



3. 卸売業の景気動向

前期に比した売上額は、増加企業が一部増えたものの減少企業が大勢を占めている。D.I はわずかながら改善されている。販売先数は、増加企業がみられる様になったものの、減少企業が大勢を占めている。客単価は、値下がり企業が減少しており下落傾向に歯止めがかかってきた。

商品在庫は、適正企業が半数あるが、3社に1社が過剰在庫である。

商品仕入価格は、値上がり企業が大勢を占め、相変わらずの高騰状態が続いている。

商品販売価格は、値上がりが半数を占めている。

表15. 卸売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横言	減少	D. I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横言	値下		
		好転	横言	悪化		
前期比	売上額	16	18.8	12.5	68.8	-50.0
	販売先数	16	6.3	37.5	56.3	-50.0
	客単価	16	25.0	37.5	37.5	-12.5
	商品仕入価格	16	75.0	18.8	6.3	68.8
	商品在庫	16	12.5	50.0	37.5	-25.0
	商品販売価格	16	50.0	25.0	25.0	25.0
	採算状況	16		37.5	62.5	-62.5
	資金繰り	16	6.3	56.3	37.5	-31.3
	荒利益率	16	6.3	50.0	43.8	-37.5
前同期年比	向こう3ヶ月の景況	16	6.3	25.0	68.8	-62.5
	売上額	16	18.8	25.0	56.3	-37.5
	販売先数	16	12.5	25.0	62.5	-50.0
設備投資額	15	6.7	33.3	60.0	-53.3	

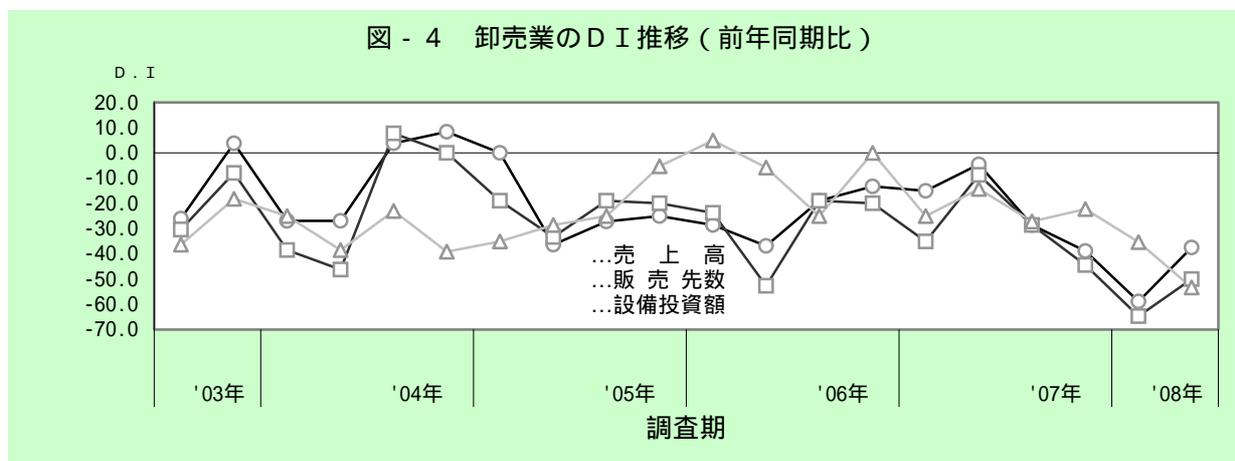
荒利益率は、悪化企業が半減し D.I は大幅に改善している。

採算状況は、好転企業が皆無である。

資金繰りは、好転企業が一部みられ、D.I はわずかに改善している。

前年同期比では、売上額の D.I は 20 ポイント改善しており、回復傾向がみられる。
販売先数は、増加企業が一部にみられるようになったものの、減少企業が大勢を占めていることに変わりはない。

向こう3ヶ月の景況感は、悪化見通しが減少したものの、悪化が大勢を占めており、先行景況感に明るさはない（表 15、図 4）。



4.小売業の景気動向

小売業の売上額は、増加店がわずかに増え、減少店もわずかに減少しているが、減少店が多数を占めていることに変わりはない。客数も、減少店が多数を占めているが、一部増加店もみられる。客単価は、

減少店が多数を占めている。商品在庫は、適正水準の店が6割台に減少している。

商品仕入価格は、値下がり店が皆無で、値上がり傾向がさらに強まっている。

商品販売価格は、値上げ店がわずかながら増加しており、下落傾向は緩和している。

荒利益率は、悪化店が増加している。資金繰りは、好転店が皆無で、悪化傾向が強まっている。採算状況も、好転店が皆無で悪化店が増え悪化傾向が強まっている。

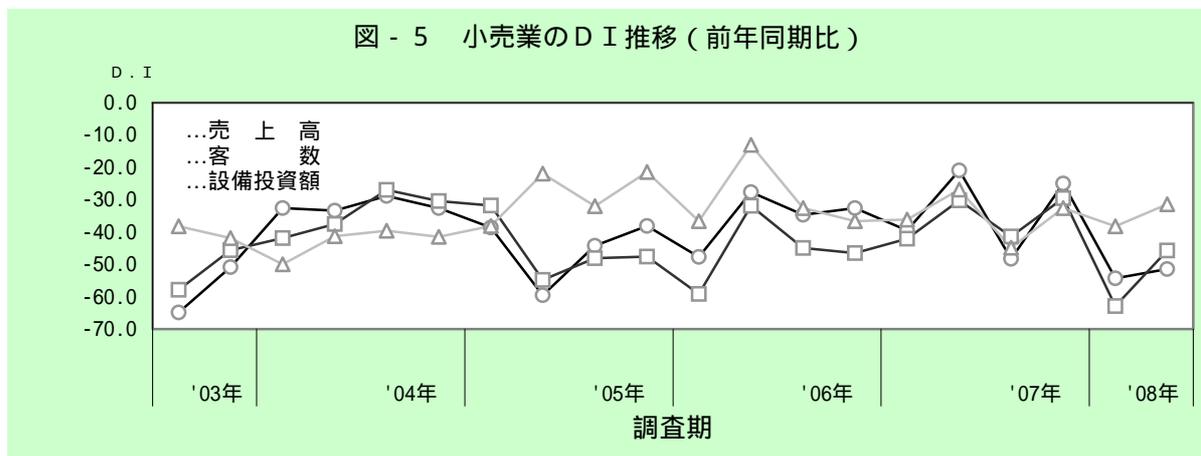
前年同期比では、売上額は、増加店が減り、減少店が圧倒的多数を占めており、大きな変化はみられない。客数は、増加店がわずかながら増えている。設備投資額は、増加店が多少増えているものの、低迷状態が続いている。

向こう3ヶ月の景況感は、好転見通しは皆無で、悪化見通しが大多数を占め景況感は暗い(表16、図5)。

表16. 小売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横言	減少	D. I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横言	値下		
		好転	横言	悪化		
前期比	売上額	35	17.1	22.9	60.0	-42.9
	客数	35	20.0	20.0	60.0	-40.0
	客単価	35	11.4	42.9	45.7	-34.3
	商品仕入価格	35	62.9	37.1		62.9
	商品在庫	35	5.7	65.7	28.6	-22.9
	商品販売価格	35	40.0	42.9	17.1	22.9
	採算状況	35		31.4	68.6	-68.6
	資金繰り	35		40.0	60.0	-60.0
	荒利益率	35	2.9	31.4	65.7	-62.9
向こう3ヶ月の景況	34		29.4	70.6	-70.6	
前同期年比	売上額	35	11.4	25.7	62.9	-51.4
	客数	35	17.1	20.0	62.9	-45.7
	設備投資額	35	11.4	45.7	42.9	-31.4

図 - 5 小売業のD I推移(前年同期比)



5. 飲食店の景気動向

飲食店の売上額は、増加店が増えており、横這、減少店が減っている。客数も、増加店が増え、減少店が減っている。客単価は、横這が半数以上を占めている。

荒利益率も、好転した店が皆無で横這が多くなっている。

資金繰りは、横這が多数を占めている。一方、好転が皆無で、D.I はまだ、水面下に沈んだままである。

採算状況も、悪化店が多少減少したものの、好転した店は皆無で回復の動きが出ていない。

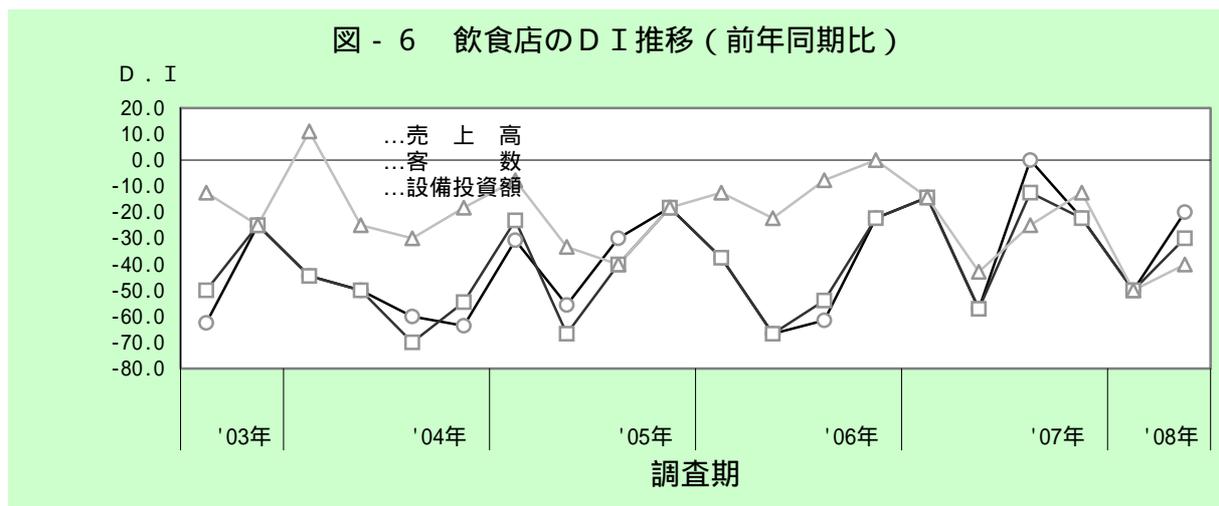
前年同期比では、売上額は、増加が微増し、D.I は改善されている。客数も、同様の傾向を示している。設備投資額は、横這が半数以上を占めている。

表17. 飲食店の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	9	22.2	33.3	44.4	-22.2
	客数	9	22.2	33.3	44.4	-22.2
	客単価	9		55.6	44.4	-44.4
	採算状況	9		44.4	55.6	-55.6
	資金繰り	9		66.7	33.3	-33.3
	荒利益率	9		55.6	44.4	-44.4
前年同期比	売上額	9	22.2	33.3	44.4	-22.2
	客数	9	22.2	33.3	44.4	-22.2
	設備投資額	8	12.5	62.5	25.0	-12.5

向こう3ヶ月の景況感は、悪化が大幅に増えており、良くなる見通しはゼロで、先行き見通しは暗い(表17、図6)。

図 - 6 飲食店のD I 推移 (前年同期比)



6. サービス業の景気動向

サービス業の売上額は、増加店が増え、D.Iは改善されている。

客数は、増加店、減少店ともに増えており、ばらつきがみられる。

客単価は、横這が多数を占めているが、増加店も一部増えている。

荒利益率は、悪化企業が微増している。

採算状況は、横這企業が減少し悪化店が増えている。資金繰りは、横這が圧倒的に多く、改善傾向がみられない。

前年同期比では、売上額は、増加企業が微増し、減少企業が微減

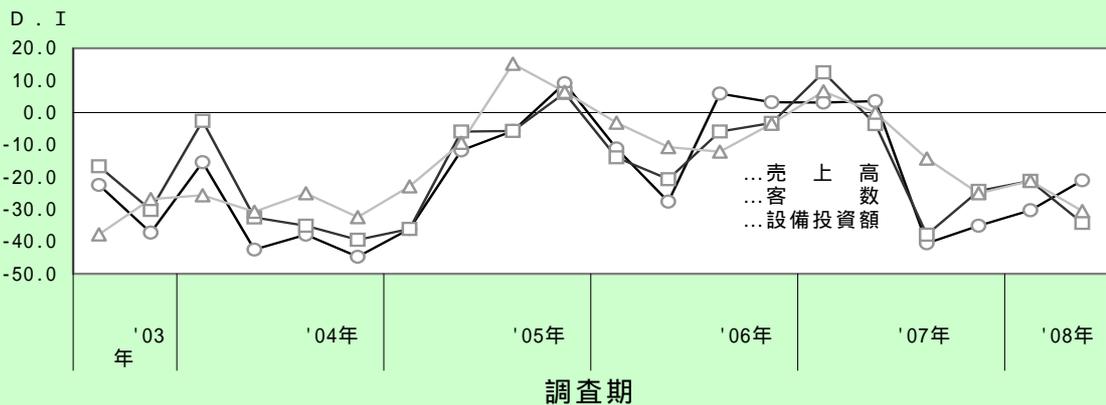
している。客数は、減少企業が増加している。設備投資額も、減少企業が増えており、改善傾向が見られない。

向こう3ヶ月の景況感は、好転見通しが減少しており、先行景況感に明るさはない(表18、図7)。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D. I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期	売上額	39	25.6	30.8	43.6	-17.9
	客数	39	25.6	28.2	46.2	-20.5
	客単価	39	12.8	53.8	33.3	-20.5
期比	採算状況	39	10.3	46.2	43.6	-33.3
	資金繰り	39	5.1	74.4	20.5	-15.4
	荒利益率	39	7.7	51.3	41.0	-33.3
	向こう3ヶ月の景況	38	7.9	50.0	42.1	-34.2
前年同期比	売上額	38	23.7	31.6	44.7	-21.1
	客数	38	13.2	39.5	47.4	-34.2
	設備投資額	36	8.3	52.8	38.9	-30.6

図 - 7 サービス業のD.I推移(前年同期比)



自由意見（原文のまま）

業 種 名	規模	自 由 意 見
総合工事業	B	資材は値上りして、受注価格は従来通りで採算は悪くなるばかり。
	C	建設業は廃業も視野に入れた方向で考えなくてはいけない！！
	D	先行き不安材料が多すぎる。 倒産業者が増加してきた(自主廃業も)技能の伝承が絶たれるのが心配です。
設備工事業	B	材料が高くなって、やりにくい。ガソリンも同じく、やりにくい。
	C	工事の引合件数は減少の傾向が見受けられますが、採算状況は材料費の値上げ20～30%が見受けられます。 売上額、増加したのは低入札の落札分を施工上、最大の努力をした。
	F	公共事業の発注金額UP。こんな金額では景気対策にはならない。
食料品製造業	F	原材料の高騰に伴う件が、現在最も苦慮している点です。
飲料製造業	A	燃料品値上り（A重油）
衣服・その他繊維製造業	A	暗い景気のトンネルの先に明るい出口が見えたかに思えたが、又消えた様に思う。
	B	衣類（帽子）の日本製は全く売れなくなりました。同業者の廃業の増加が目立ちます。前途に光明ありません。
パルプ・紙製造業	B	製品仕入額値上りも、販売価格値上げ進まない。前途困難なり。
	E	荷動き低調で、受注競争が激化してきた。
出版・印刷	A	原材料の値上りが甚だしい。
プラスチック製品製造業	F	売上、商売の内容が変わってきている。原材料の値上りが転化できていない
鉄鋼業	C	原材料の値上げに伴い、製品も値上げを一部認めて頂いても、運賃の値上げ等認められず、採算は悪化。
非鉄金属製造業	C	孫受けでの受注は底割れの状態です。自動車・建設機械部品の受注は好調を維持。その他、医療機械、産業機械は低調です。
金属製品製造業	A	鋼材、原油等の原材料の急騰が経営に重くのしかかって来ている。加えて景気の減速による受注の低迷など課題が多い。
	C	7～9月期、工場設備新設予定
	D	原材料、その他の購入品が値上り過ぎて、対応が遅れている。客先も簡単に値上げに応じてくれない。今後、取引をやめていかざるをえない客先も出て来る。何とかインフレを止めてほしい。
	F	これから益々不景気感が増し、倒産が増加し、株価が下がり、原材料が上昇し、日本は世界から孤立するでしょう。

自由意見（原文のまま）

業 種 名	規模	自 由 意 見
一般機械器具 製造業	D	営業努力に重視する方向です。
	F	鋼材は仕入up。売価は値上げ未確定。受注状況は、8月過ぎて良くなる様子。鋼材値上げが、7月以降にもやってくる。
電気機械器具 製造業	C	金を動かして、利益を得ることができない様な仕組みを頭の良い人がやってくれんものか。温暖化対策もここにヒントがあるのと違いますか。
	E	一段と受注が減少している。景気の悪化がもっと進行する感がある。
		諸経費のコスト増はもちろん、原材料の値上げも十分に転嫁できない。サブプライムローンと石油高のダブルパンチ。業界は半減化している。国内値頃感は1/2～1/3の商品に移行。年末以降は回復して来ると予想している。
輸送用機械器具	E	受注減、資材値上げ、売価下落で極めて苦しい経営となっている。
繊維・衣服等 卸売業	B	努力も限界に近い。いまだ改正建築基準法の影響が大きく、倒産も増え続けている。（行政の責任大）
		建設、資材、関係が特に悪い。
		世界的な資源不足。原油の高騰等による製品価格の上昇で、今年1月に比べ仕入@が55%（平均）上昇した。同数量を在庫するにも資金は従来より55%以上必要とすることで今後の資金繰りが不安だ。
飲食料品卸売業	E	ガソリン価格上昇等により、消費者のサイフのヒモがきつくなっているのでは？と推測しています。
繊維・衣服小売業	B	4月頃より、高齢者医療問題の件とガソリンの値上り、その他の値上りの為、特に高齢者の方の購買力が落ちた事。
飲食料品小売業	B	商工会議所も派手な催しは自粛して欲しい。一部役員はボランティア精神でやる気持ちが（？）厳しい時ですのでお金の使い方に要注意を。
		本当にどこに原因があるのか、わからない程状況がつかめません。今迄経験したことのない不況です。どうすれば生き残れるのか不安です。 店の横にコンビニ店が出来た。
	C	ガソリンが高くなって、近くの店で買う人が増えたが、商品の値上りで、買う点数が減っている。
自動車小売業	B	我々の街そのものが活気なく、イベントもない。現状が大きな問題では？市民参加の花火大会や祭りなどの復活を願っている。
	C	新商品の発売により客数、売上は増加したものの一時的な出来事であると判断している。

自由意見（原文のまま）

業種名	規模	自由意見
家具・建具小売業	B	ニュースひとつ取っても、消費者の購買力低下を促すような事ばかりで、しゃーないかな...とも思う。
その他の小売業	B	業態変更後（2月上旬）より、売上不振が続き、このままの営業は出来ないとされます。石油の値上げも今後上がったらと思うと！！
一般飲食店	B	諸物価（仕入）の値上り。メニュー価格は15年間据置きで値上げする事は難しい状況です。採算上苦しいです。 材料費の値上りが深刻である。
	E	H20.3末日に店舗リニューアルを行いました。資金繰りは苦しいが、先行投資はしなければなりません。結果は良かったです。 ローカルで立地条件悪い。飲酒運転取締り強化。
不動産賃貸・管理業	B	ショッピングセンター業界は、やや低速気味ですが、当モールにおいては、リピーターの消費拡大により1人当たり購買額が伸び売上も向上しております。
旅館・その他の宿泊所	C	仕入れの経費が上昇して困ります。値上げができないので苦しいです。サービスに変化をつけて乗り越えていきたいです。
物品賃貸業	C	依頼心が強く、成長したいとか目標に向け挑戦することにあきらめが早い。
情報サービス業	C	事業特性上、繁閑があるため、期ごとの差が大きいです。
専門サービス業	B	1～3月好況でした。その後はぼちぼちです。
	C	自動車業界は、あと1.5年位は苦戦すると思われる。新技術の開発をしていく、新規開拓もしていく。
その他のサービス業	F	平衡感覚を失くした経済、先行き不安拡大。

規模区分 A = 1～3人、B = 4～9人、C = 10～19人、D = 20～29人、
E = 30～49人、F = 50～99人、G = 100人以上。